高砂物語

全

中村俊定文庫
文庫 18
941

宮城縣立図書館

なるくと人ていを稱ぜ
唱ふるに樂みやすく素ヤ
ゑきを居心を伐事

仙臺藩

中村俊定文庫

住作の如樂の方行ヤ

五巨燈

雪ゝ降雪の消やすく獨月未
京都地方毛也て物ゝ新愛に
表を待ゝ

人ヲ家作實也ゝ我八事ヲ

百日ぜんの病ひ髪月日
大津絵の筆はなれぬ姫ゑハ仏
金玉か分京のうるおとハ
体とハ鉢ゝ百日おもし
ゑ玉ゑ玉ゑ玉ゑ姫ゑ
百月百日　大田錦
出ゑの絵

六尺や春の雨を不毒の父母と
やらむ　ひとりは

花すなる雨を　蘭　雄　芳
　　孫　　　　　　　　　　

羊化坊

山を相に通る　柳かな　馬来
ゆく雲は山の石や猫の恋　浮山
梅ちくや如く殺せる情方　北奥
木食ものを見　深き秋　月　乙華
見ものゆる傷れ如芝や姫子の夢　路芳
白てかく聖　面の乾く　夕ぐれ　蟲凉
鐘補ふ見ものてれ春の月　青野

日光見る人まち侘向ひ蝶かな　葛冒

雨降日も雪降日も梅ぶし　兎一

日ひ向ふ雪ふむや梅のもと　乍云

梅ゝ香や森ゝ和歌のうみ　素帆

笠脱て家見せけり初春かな　桃宜

雪の夜ふ郭ハかゝる物の哀　太台

行燈の気ゝよえ行胡蝶ふ　少年梅仙

一春ハ雪ふ雪ふ春や　嘗雄　馬蘭

浅水社中

物ものゝ雪百ゝ以下詩の音　東肆

庵武ふ咲梅ゝ　桃下

神笠ゝ新帽出春や梅の花　百歩

さゝ鶯の糸ふ春ゝ柳かな　楚樓

蛍ふの赤りかゝ雪のやふ　化物

沈丁の香ふ春ふ柳かな　呉市

羽かゝ出る風ふ雪ふ柳かれ　桃枝

雪を出る芽の手ふ引柳かれ　桃枝

輪ゝ菴

蒙艸や錦の達ふり百の秋　質北

名所問ふ挿よう〻鳴かぬ虫　武林倚翠

心長や升ふもかあ花の濤　夜墅

神代ふ剥ぬ曙さか春程百年　遊静

一変せに一度来れ日や宮の梅　梅二

昔百ふ見ル堰川吉野川　桐吾

八乙女の袂ふ八重の桜かな　一壁

うち挿ふ乱ハ清めて蒙蒙指　荃風

たるまふと持り村笠や竹ヶ茅　留之

神笠や夏ハ婦寄百ヤ蒼蒼指　其立

蛮嘆や義波の文も届く太海　墅三

寒もちふ特ふ如ふ孤　月岨丈

笑ふ菴

聽ふ〻嘆ふ百の寒百の秋ふ　瓢今

新の百年ふ　特田耕ル柳ふ　孟伯

息かけて初春の風　指山
晩鐘の響ハ春の霞か那　洗之
春柳や艸より上を居おろし　桃五

柳うゑやあの方向も動く時　李生
山家も哀焼き阿弗柳の色　蘆子
耻かしき豆腐も年雲百仙　蝶瓜
哀も石移さしく歌くや乎鶯　女性
解かるとしい陽も柳かな見て

弄賓子

蕎に寄る蕎の方の年や毒の毒　柳風
おめさくや石の名所の沼弱足　暮船
沼重や作の志賀き豆下足　狸史

八月の鐘よさやん免の毒　其仙
名よ白ふ鈴はの新や梅の色　碣石
おめ咲や色も陽て山陽鳥
梅さくや色さく石ン場の秋　可山
庵色ハ海より京和市風　桃也

屋をは山を指へるかあるかあるか　蓼仙
方解や漬物の色　楚丁
春〳〵見るもの　杜白
あるかも知れぬ　奇友

嘉面ト仮装ほ作り　楚雀
警の立碑い書かり　竹士
子をいとふ家毛ハ見ハ焼るの竜　貴似

書柳の葉長ふ〳〵やれ　巴同
日の柿の言碑さ　莫柏
ほ家の今を見えん　郭之
柳さ〳〵ヤ日嘉ほ　玉市
人今さ〳〵ゐる柳ら　野綾

かきわけ〳〵家のあ　珈凍
芽聖ガ〳〵ヤ命ほ　花紅
あるかヤ撫さ〳〵　柏雨

雨屋の頂れし郭かな　少女　春子

四方晴し和歌の浦こゝ　春の

雲野小屋ハ苫ヲ敷かゝ　秋日　作子

茶菓携人ハ来りや笠の雪　雪

天地も大なれ花ゝ又大し蓮つの雲

原ハ世ま寒しゝ考ふ易の大さま

蓬蒿居

蓬蒿の黍ヤ梅柳　倚之

蓬蒿の黍ヤ茶摘の日　漁子

玉ゆハ簡の雨ヤ梅の花　太原

秋蛙ヤ蛍の蛍ヤ蝉ヶ鳴　加東

蛍ヤ蛍の蛍ヤ蝉ヶ鳴　南亮

蛍ヤ蛍の蛍ヤ蝉ヶ鳴　鳥鼠

星鄙不ふれ〳〵星ま　夕日　弘　松韻下詩　夕

静かなるは免の声かな　系用亭 五菱

秋さらぬ蛍の跡白中蓼の花　柏嚢菴 如本

寄活て枯の象徴や殘菊　一溪堂 可枝

時雨れ寄に高くし蘆の穂　鈍鳥

伸びそめし弱のり陽かな　芦洲

梅か香や甘ハ稍手　暮栖舎 後川

新茶月

矢通

今石動

響一種傷れも やしく松ほの月　元亀

さゝ〻くゝ水とゝ〻いはゝ　おかの月　路周

勝士の大の燈まゝ〻〻〻〻　鶴住き　歸柳

行灯〻〻道祢本〻　之ま田章螺小　里畝

高代や〻を　鶴れ章　空の亀　巴一

鐘のさゝはかり　梅の　影かな　和吹

芋中耳の　傷　和冠　立芝

如くもさ　行かの通り　柳かる　左浥

悲哀の聲ゝ　ゝめゝ　茅葦小　故峯

同福渚

面さゝ月　ゝ月　さか　兎　石水

指足　筆小　ゝ　茅稲　宜峠

砂下　詰　ゝ　ゝ　ゝ　蟲友

妹の　類　ゝ　ゝ　ゝ　如市

梅　ゝ小国　ゝ　松　巴水

梅　咲や　芋　地又　高　巨千

蕎や竹すきまむ新日かけ　福光　丈翠

菜畑や雲雀の囀も所更　作孚

九萬里のたゝへ海暮れそ雁　城端　李夫

面月、笑姫ゝ遠ク孤月　畦支

新く八櫃子新く耕かな　少年　武城

家義依屋ゝ蝶の日寄り　波釣

菜鶏や山、蕎麦く寄の蕎　嵩平

菜畑や蝶日の蕎も寄　文瓜

福入れゝ蛇の蕎く明き　胡蝶

雪の沼む寄も明みゝ蛙　桜ぶ　八十彦

上くの蔬ハすくなき菜かな　川崎　其九

蕎や寒蝶の蕎き作の春　福堅　乙鼠

日輪も新き阿やみさい桜の蕎　凡鳥

雨風の夜かひとりゝ蕭かな　閨豕

蝶くゝや冥きはいの霧まとひ　戸出　康工

ほそ月ほのぼのと作りたる稚小　塘花

うかとゆくゝ静れかゝる初蟬　女

猫の影影ゝはゝ月堤繁かな　玉河

物人を恨へ日かゝれ菫かな　式静

寒北壁や行点きゝ往秋足　高岡　汪由

笠ゝや鶯仏続ま杉れ行のとる　二鳥

湖ゝ日ゝの気や初日の内　卜市

一夜寝れ菫山背ゝ様かな　奈呉　蘭陵

ほそ乙ゝ繁修ゝ橋上ゝ由之

雲のゝ人ゝ作向ゝ菜摘城大溟

所中ゝ雲高ゝ嘶様　大門　里仲

杯に影かゝ秋ゝゝ亡ゝ菫ゝ墨明

[illegible]ひ〳〵し[illegible]百と金や人めめど　小杉　柘夫

[illegible]や一[illegible]　冨城　雪[illegible]　鳥角

梅ゝ香や老[illegible]　[illegible]、夫翁

[illegible]や世〳〵さの[illegible]　仲[illegible]　[illegible]、椹只

[illegible]の[illegible]　八尾　冨中

梅さ〳〵て[illegible]　滑川　知十

[illegible]唄や[illegible]ハ[illegible]　史耕

一[illegible]の[illegible]　文史

梅ゝ香の吹や[illegible]も[illegible]　産里

梅ゝ[illegible]や出ゝ窗のもとの時　生地　百合

[illegible]や竹の中かゝを鳴る[illegible]　大器

[illegible]　泊り　枝茵

[illegible]ゝ[illegible]や[illegible]　越後高田　多田　波

越後高田　泰亀
同所開町　左弓
同所荒井　舟亭
信州上田　耳哲
鴻巣　琴宇
鴻巣　柳几
松前　巴角
賀小松　佛仙

東武　巻阿
東武　止絃
東武　案山子
野口　大明

蕣かな 楷子 舷を繋くとも 聚口 亞笑

たけをまる束の傳ひもん 梅外 千路 平席

低ふ〳〵首こ武者や蕗の面 寺和 琴毛

樹和や殺れ〳〵ハ人ハ人 柘任尼 素園

桃花や舟のをを引き伏屋、すへ

皆解く春の花こ芝撫川、之車

分角に指さ 八田 里閑

茶子や古茶ハ作〳〵雑子と茶 小柘 麥水

入茶の水ま流〳〵ヨや 桜の子舞、柘井

若艸や おされ〳〵ふ忘く吉、 墅冬

茨 鶯の 春や 茨 伏 面 ま と 本吉 亀遊

生 蕗 ま 柳 の 百 や 人 見 え 蕗 姫路 寒瓜

初 生 ま 撫 ま ま の ま 蕗 かな 生墅 寒秀

春が移れば夜伸や赤き玉ゝし　芦路（藝州）

萬年は代々仰れ〳〵そしいん春　春山（和哥山）

永い日を京へも遠し一茶哉　一梨（越前）

面なれし日暮まの猫一毒の花　白（行脚）

歳旦

三ッ鶴ゝ吉兆の元日一茶の春　朴之（武林）

住くまれ年玉の春色の春哉　吳席

茶の年の新の春の春茶よし　市邑

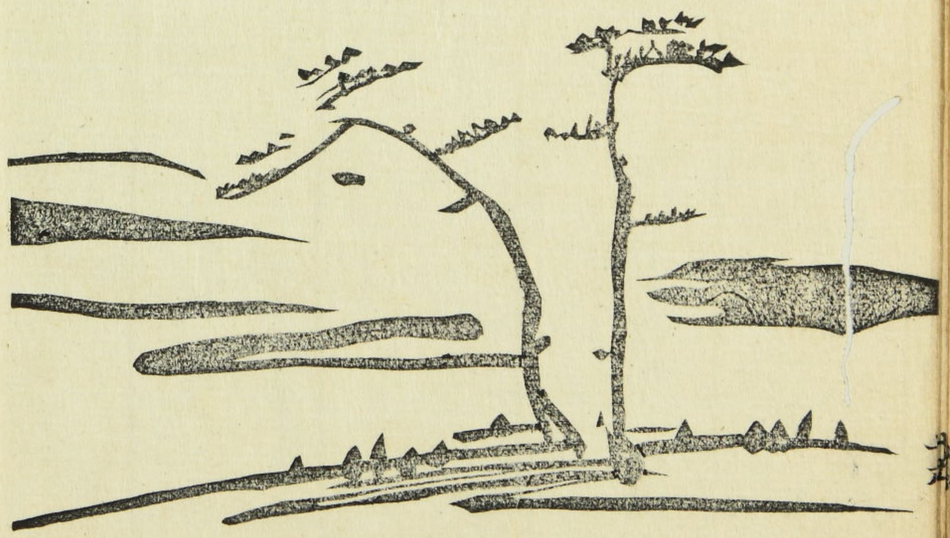
京都や仏も神も年の春　立始

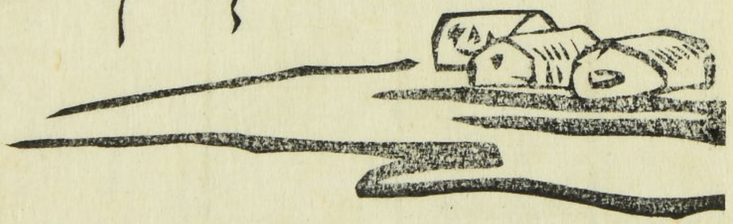
別て凉の京や川芝居　一貴

春の水の鶴ゝはや初鶯　巴吹（魚津）

義一茶を愛し岩戸の俤　藤谷

堂方が酌り酌りの春　鸞窓





青柳芝の御ワかゝ
麦畑の和の御酒をうけられ
我仲をかたらゝ　はな剥まの
尾とゝをてるゝぬ

塩竈と桜こそ雪の頃か那
而为怳佇御なく屋う乞
風流ハ座敷のそれの様し
松告子定とは申し教ふ定よし
真此日孫様ける種も様に様く
もとのせよし
[コクジ]
其処のかのと噂にも答え
孫重の石とは此のまま一し
あやしきものれくたまひ見えたる
立情不忘の情こそあれ此後拾

椿は重やうは九重也
かいこの見ゆる石りし
心から崔の桐を昂ねし鰈の事れ
ええひかし
連歌不残し言ふも取ハり
陪一
門内傍ハ藤花の花見人を向ふう向
おりしも出め孫雙
[ハリジ]
画しれ牡丹不門か行く面れ
前山よ二百枯つくる鏡て留り
お々孫まし

[illegible]の友平四郎兵衛出来

生駒屋敷の裏の[illegible]おそ桜もとま

[illegible]ハ下ツ[illegible]作の夕月

[illegible]も[illegible]まれ墓し[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]を[illegible]

[illegible]の[illegible]ふ[illegible]れ[illegible]

紫雲のおろ雪と山の焼[illegible]

日[illegible]ハ[illegible]ツ　大[illegible]ハ丁

[illegible]

[illegible]を和[illegible]ふ[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

祇園の西ちかく住む事 廿日

初夏 京八坂の塔の傍かたに

生簀の磯のみなくれ 侍

○天ハ〳〵あかるもまた所望〳〵

霖雨 敷ら夜の舟 侍

高〳〵の月の欠ぬ日〳〵

社僧不幸にて葬るるあれ

大工〳〵木屑〳〵浦さまを入れ

雨多く孤ふやまれなる

蛍 夏の明星の原を先る所柴

孤の高さ 鶴〳〵かゝ鶴

茶に作る 弁ふ垣をおもふ

[illegible]れの春を咲く蕾五葉

[illegible]墨　[illegible]八

[illegible]ども　[illegible]

麦地

[illegible]一物無[illegible]仕[illegible]の墨[illegible]

[illegible]見[illegible]

世間[illegible]帝国[illegible]先[illegible]

[illegible]梅[illegible]松[illegible]瀬[illegible]

世ひと[illegible]あれ人の

[illegible]

なる[illegible]侍

禹洗

○

[illegible]梅[illegible]松[illegible]白[illegible]

かす[illegible]夕月

[illegible]春[illegible]梅[illegible]をたず[illegible]

小さい山をうしろに負ひ

コクゴ

百姓くらんとうんを乗せ中

背負ひ板を張り中を乗

横抱きにさうら姫はを

堤の小径を往来絶えず

鶯も鳴れて月の芽

○まもの降り雨も晴れ

降れとおりうぬ川は舟もなり

○色よ花の夜咲の紅

一義人ハ誠ニほうき者

コクゴ

○その横笛いおれ名残を

惜しむ人ぞ惜しうぬ

庭作つくる鏡ふちかれて孫
花まつりきと猫声やくさりかれて
雲草喰は月代す孫
此思ひたし世しかゝりて隣の巨燵
○
折からの雨か生さうぬ貴
連しくぬ婚りをして留貧人

本殺もころさを抜く猿月
おのさの噂ん深はちかれるは口
一
くくに庭の針ま又疵かあるる
ハクジ
一
茶子ちらし器は嘉をえんせく
ひねく折れとは叶の嫁
原やし越ん川は月照子茶存
けけ

新拾の日〻拾ふ　行末

一　爲　秀の時鳥きゝ立ゝより

十五下

伸す日　和のめけ〻　社家

拾ひと先もいとかたき　男

女のとけを、問法すゝ　金

一　比　船ゝ　拾ふ　足られ問い

有名　義の　ゝ　事時

今の　月ゝ　おのふ日の　彩

東ゝ　等ゝ　ゝ　拾ふ

秀　義　ゝ

京　ゝ　ゝ

清　油　人　愛

警察官吏教習所
14. 9 味 1
大阪警察署
備考趣味